

(案)

令和 年 月 日

多摩市長

阿部 裕行 殿

多摩市みどりと環境審議会

会長 沼田 真也

(仮称) 次期多摩市みどりと環境基本計画の策定について (答申)

令和4年8月18日付4多環環第173号で諮問されました、(仮称) 次期多摩市みどりと環境基本計画の策定について、下記のとおり答申致します。

記

標記の件について、本審議会では、新しい課題への対応と環境施策のより一層の推進を図ることを目指し、市民、事業者、市民団体等及び市が中長期的な視野で取り組むべき主要課題の抽出から着手しました。その上で、将来を担う世代も含む多様な世代の意見・想いを把握し、計画に盛り込むべき基本理念や目標、取組みの方向などについて審議を重ねてきました。

これまでに全体での審議8回、分科会による審議4回(2分科会を設置)を行い、このたび「第3次多摩市みどりと環境基本計画(原案)」を別添のとおりまとめました。

この原案に記しためざす環境像「循環・調和・共生のまち みんなで創る多摩」を実現するためには、新たな課題の解決に向けてゼロカーボンやネイチャーポジティブなどの考え方も市民に周知し、本市に関わる全ての方が意識や行動を見直し、これまでの社会・経済の仕組みを変えていくことが肝要です。

今後は、この原案を基に策定された新計画が、市民、事業者、市民団体等及び市に共通する目標として共有され、協働による取組みや計画の進行管理が進められることを期待します。

しかしながら、気候変動に伴う自然災害の頻発化・激甚化、少子化・高齢化、技術革新など社会情勢の変化は今後も続く予想されるため、「計画通りに実施すればよい」ということではありません。長期目標・短期目標・取組項目等は常に見直し・補強を行うなど、多様化・複雑化する課題に俊敏に対応し、市民の知恵や力を基にまちの価値創造に貢献する取組みを実践することが必要です。

このため、計画の推進段階では、気候危機への対応やみどり・生物多様性の保全、資源循環などの多岐にわたる取組みを、多様な主体の参画のもと、分野横断で効率的効果的に進めていくことを期待します。とりわけ、令和5年度に実施した「多摩市気候市民会議」での市民提案が一つでも多く実現されるよう、市政への反映に注力いただくことを求めます。また、この気候市民会議の成果を生かし、市民が気候問題の当事者として「気づき」から「行動変容」に繋がるなど、次期計画の点検と評価等を継続的に担う仕組みとなっていくことを期待します。

以上